

## 「自然堤防と後背湿地」(岐阜市島地区)

地名と土地利用から知る地域の特徴とその変遷(その1)

岐阜県の地勢を的確に表す「飛山濃水」という言葉があります。この言葉からわかるように美濃平野は古くから良くも悪しくも「水」に関わる環境が卓越しています。今回はその典型例である「輪中」地域以外の例を紹介します。

場所は長良川扇状地の扇端の北側で大小いくつかの川が合流する地域にあたります。過去に上流で分流した長良古川が再び合流し、長良古川の少し上流側ではほぼ北西方向から流下する板屋川と北東方向から流れ下る伊自良川とが合流し、さらに、伊自良川の少し上流で鳥羽川が合流する地域です。

この地域では近島・旦島・北島・西島・西中島・東島・島田のように「島」地名が集中し、また、尻毛、江口、萱場、菅生、池上という地名がそれを取り巻くように分布しています。

ちなみに、「島」という地名は自然堤防を示します。さらに、地名用語語源辞典<sup>1)</sup>によれば「尻毛」の「尻=しつ」とは「湿って粘りのある様子」で、「毛」とは「場所」を示す接尾語とあることから河川流域の低湿地であることが判明します。同様に「江口」の「江」も川、海、湖、堀などの陸に入り込んでいる水域をさすことが多く、湿地など「水気のある所」も含むとされています。また、萱場や菅生も低湿地で、水がよく湛く場所を示しています。たとえば、萱場のカヤとはチガヤ、ススキ、スゲ

などの総称ですが、このうち、スゲは湿地、水辺に生えるカヤツリグサ科の多年草をさすといわれます。また、菅生はス(州、砂)、ゴウ(川の意)を示す地名、あるいは、スゲ(菅)の生えた所という意味があり、どちらの意味からも河川沿いの低湿地または氾濫原であることは間違いのないといえます。

以上のようにこの地域は自然堤防を表す「島」地名と低湿地(後背湿地)を示す地名が対となって集まってみられるのが特徴です。

自然堤防は普通、細長く連続する帯状または円弧状の形態を示しますが、この場合は島という地名で表されるように塊状となっています。原因はこの地域が、一つの大きな河川の蛇行によってできた自然堤防と周辺の後背湿地帯からなるのとは異なり、大小複数の川の合流地帯にあたるためと考えられます。ある時点で洪水で形成された帯状の自然堤防が、その後、合流する別の川の洪水流によって切られたり、削られたりして形成されたのでしょう。それはその後の増水時に一帯に広がる水面上に島のように浮かんでいたと考えられます。

周囲を取り巻く堤防が築かれるようになってからは、そのような光景はよほどの洪水時以外は見られなくなりました。

(その(2)に続く)

1)地名用語語源辞典 平成5(1993)年 楠原佑介 満手理太郎 編 東京堂出版

2.5万分の1地形図「北方」  
(大正12年国土地理院発行60%に縮小)

2.5万分の1地形図「北方」  
(昭和47年国土地理院発行60%に縮小)

「世界分布図センター」には、13万点を超える分布図・地図、地図関係図書があります。

また、「情報工房」ではコンピュータ及びGISソフトを使ってオリジナル地図や分布図を作成し、印刷することができます。

調査・研究や学習、国内外の旅行の準備等お気軽にご利用ください。

岐阜県図書館

世界分布図センター・情報工房

〒500-8368 岐阜市宇佐4-2-1

TEL (058) 275-5111

FAX (058) 275-5115

URL <http://library.pref.gifu.jp/map>

E-mail [mapstaff@library.pref.gifu.jp](mailto:mapstaff@library.pref.gifu.jp)



古紙配合率 100%  
白色度 80%の再生紙を使用しています。